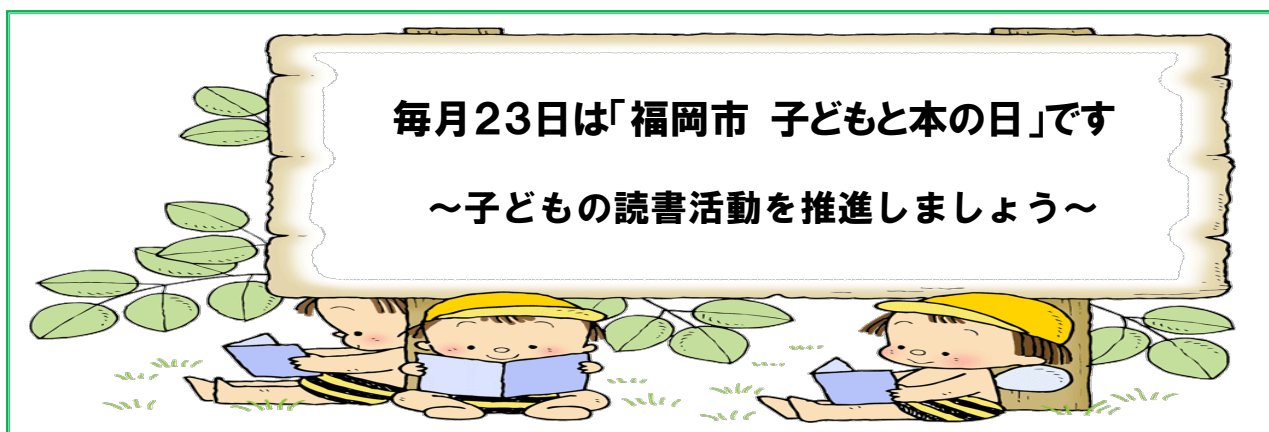




4月2日 国際子どもの本の日



4月2日は、デンマークの童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセンの誕生日「国際子どもの本の日」です。1966年にIBBY（国際児童図書評議会）の創始者イエラ・レップマンが提案し、翌1967年に記念日に制定されました。以来、子どもの本で国際理解を深めるために、毎年各国でお祝いや特別なイベントが行われるようになりました。1969年からはIBBYに加盟する国々が順番に、メッセージとポスターを作製して発信しています。

IBBYが創設50年を迎えた2024年は、日本が担当国でした。日本が作ったポスターが世界中に貼られ、日本から「物語をつばさに 想像を力に あらたなはじまりへ」というメッセージが世界の子どもたちに届けられました。

4月23日「子ども読書の日」 <2025・第67回こどもの読書週間>

今年も、4月23日（水）の「子ども読書の日」から5月12日（月）までの20日間が、「こどもの読書週間」になっています。

今年の標語は、「**あいことばは ヒ・ラ・ケ・ホ・ン!**」です。

年度初めのご多用な時期とは思いますが、子どもと本との素敵な出会いや子どもの読書活動のきっかけになるような空間と時間の設定をお願いします。

ポスターは下記のHPよりダウンロードできます。

<文部科学省 子どもと本の情報館>

<https://kodomodokusyo.go.jp/happyou/books.html>

— 第 11 回 全国高等学校ビブリオバトル決勝大会 —

「子どもと本の日通信」11月号では、ビブリオバトル福岡大会の紹介をしましたが、その決勝大会でもある第11回全国高等学校ビブリオバトル決勝大会が、1月26日に東京で開催されました。

決勝大会のグランドチャンプ本（聴衆が最も読みたくなった本）は、栃木県立石橋高校 2 年の室井優奈さんが紹介した『アヒルと鴨のコインロッカー』（伊坂幸太郎 著、東京創元社）となりました。

ビブリオバトルは、誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームです。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広がり、小中高校、大学、一般企業の研修・勉強会、図書館、書店、サークル、カフェ、家族の団欒などで、広く活用されています。

また、高校だけでなく、大学生や中学生を対象とした全国大会も、毎年、行われています。皆さんも、機会があれば取り組んでみてはどうでしょうか。

ビブリオバトルは、以下の公式ルールで定められています。

- 1 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- 2 順番に1人5分間で本を紹介する。
- 3 それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分間行う。
- 4 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が1人1票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。

<第11回全国高等学校ビブリオバトル決勝大会 入賞作品>

優 勝 『アヒルと鴨のコインロッカー』（伊坂幸太郎 著、東京創元社）

準優勝 『あと十五秒で死ぬ』（榊林 銘 著、東京創元社）

特別賞 『僕は上手にしゃべれない』（椎野直弥 著、ポプラ社）

<第8回全国中学校ビブリオバトル決勝大会 入賞作品>

グランドチャンプ本 『行為の意味』（宮澤章二 著、ごま書房新社）

準グランドチャンプ本 『有罪と、AIは告げた』（中山千里 著、小学館）

中学生全国大会は、3月9日に、京都で開催されました。

令和6年度も、あと8日となりました。本年度も、子どもの読書活動の推進へのご協力に、感謝申し上げます。来年度も、子ども達が、たくさんの本に出合うことができるように、それぞれの立場で、努力したいものです。今後も「子どもと本の日」通信をよろしくお願いします。〈須藤〉



4月のことと人

4. 2 図書館開設記念日

1872年のこの日、東京湯島（昌平坂学問所 講堂跡）に日本初の官立公共図書館である東京府書籍館（しょじやくかん）が開設されました。書籍館は図書館の古称で、ロンドン図書館などを参考にした初めてのヨーロッパ式図書館であった。

4. 12 世界宇宙飛行の日

1961年のこの日、世界初の有人宇宙衛星船・ソビエト連邦のヴォストーク1号が打ち上げられました。

2011年4月の国連総会で、記念日とすることが採択され、国連が制定した国際デーの一つとなりました。

金子 みすゞ (1903. 4. 11～1930. 3. 10)

山口県生まれ。日本の童謡詩人。約 500 編の詩を遺した。没後半世紀は、ほぼ忘却されていたが、1980 年代以降に脚光を浴び、再評価が進んだ。代表作として「私と小鳥と鈴と」「大漁」などが有名である。

中島 潔 (1943. 4. 26～)

旧満州国生まれ。日本画家、絵本作家、イラストレーター。童画や女性画を得意とする。1982 年、NHK の音楽番組「みんなのうた」の『かんかんからす』のイメージ画を担当し話題になる。

森 絵都 (1968. 4. 2 ～)

東京都生まれ。日本の小説家。1991 年児童文学『リズム』でデビュー。繊細な心理描写で幅広い読者層を獲得し、2006 年『風に舞い上がるビニールシート』で直木賞受賞。作品に『カラフル』『永遠の出口』『みかづき』などがある。

有栖川 有栖 (1959. 4. 26～)

大阪府生まれ。日本の小説家・推理作家。1989 年『月光ゲーム』でデビュー。作風から「日本のエラリー・クイーン」と呼ばれ、ロジカルな謎解きには定評がある。著書に『双頭の悪魔』『幽霊刑事』『マレー鉄道の謎』『女王国の城』などがある。

今月は、身近な草花についての絵本を紹介します。

『シロツメクサはともだち』 鈴木 純／著 ブロンズ新社（2024年）¥1400(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児★★★★ 小低学年★★★★ 小中学年★★★★ 小高学年★★☆ 中学生★★☆

高校★★☆ 一般★★★★

（★が多い年齢の子どもにお勧めです）

<本の紹介>

ごく身近なありふれた道ばたの白い草、シロツメクサ。でもこの本を読むと、シロツメクサについて実は知らないことだらけだったという驚きで、いっぱいになります。

低い目線で接写されている写真からは、地面から生えているそのままの姿を細かい部分までじっくりとながめることができ、シロツメクサの美しさと生態の不思議さに、あらためて気づかれます。

友だち同士の会話のような文章も、ほのぼのとしており、作者のシロツメクサに向けるあたたかな心を感じる絵本です。

<子どもに手渡す時のポイント>

この本を一緒に読んで、それから家の周りの道ばたでシロツメクサを観察してみてください。身近な草花のひとつひとつにも知らないことがたくさんあるという驚きと、それを知る喜びを得ることが出来ることでしょう。



このコーナーで紹介した本は、お近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。